

8 マツノザイセンチュウ防除に関する研究（第1報）

予算区分：受 託

研究期間：平成 13 年

担当科名：森林育成科

担当者名：江崎功二郎

小谷 二郎

．目的

マツ集団枯損被害はマツノマダラカミキリが媒介するマツノザイセンチュウがマツ樹体内で増殖するために発生する。県内では被害対策として媒介者のマツノマダラカミキリを駆除する伐倒駆除や薬剤散布が主に行われている。近年はこれに加えて薬剤を樹幹に直接注入して、マツノザイセンチュウを予防する方法が注目され、名所・旧跡の庭木のマツに利用されている。本試験ではマツ集団枯損被害対策に今後、重要になる樹幹注入剤（PC-4716V；ファイザー製薬）の予防効果とその持続期間についての試験を行うものとする。

．調査内容

- 1．試験地の設置
- 2．樹幹注入剤の注入
- 3．マツノザイセンチュウの接種
- 4．効果判定

．調査結果

樹幹注入木と対象木を比較したところ、明らかに樹幹注入木の健全性が高いことが認められた。すべての枯死木から線虫が分離されたため、立木に接種した線虫の病原性が確認された。

．考察および今後の課題

薬剤注入の当年において樹幹注入剤 PC-4716V は、樹体内に侵入したマツノザイセンチュウ防除効果が認められ、マツ材線虫病予防薬剤として評価できることが明らかとなった。